STOP! THE ハッ場ダムニュース IN 埼玉

No.32　2011.7.22

●八ッ場ダムをストップさせる埼玉の会・代表　藤永知子●

2011年ダム予算2400億円を震災復興に！

今こそ「政・官・財」の利権構造社会から脱却しよう！

政権交代後、八ッ場ダム事業の象徴として映されたあの２号橋（不動大橋と名付けられた）を５月の現地見学会の際に渡った。不動の滝が眺められ、丸岩などの長野原町の山々も見渡せるそこは皮肉にも観光スポット化されていた。一方、久しぶりに立ち寄った王湯（共同風呂）の露天風呂の客は、私を含め三人であった。客足も減少しているようで、名湯川原湯温泉街は閑散としており、以前宿泊した旅館は取り壊され、更地となっていた。代替地に移転しても以前の賑わいを本当に取り戻せることができるのだろうか。下流都県の住民の命と財産を守るという名目の国策として進められてきた八ッ場ダム計画は、巨額の工事費を使うことで地元自治体を巻き込み、水没住民の明るい未来への展望を築けない状況にしている。地域振興策や生活再建策が急務である。

「政・官・財」の利権構造によって進められてきた八ッ場ダム計画も、今注目されている原子力発電の問題と全く酷似している。推進側の学者が優遇され、メディアも巻きこむ広報は、反対側の意見を排除してきた。国交省のダム検証の有識者会議のメンバーも御用学者で占められ、基本高水を検証する日本学術会議も結局は国交省に組した。6月29日「八ッ場ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場」第６回幹事会を傍聴したが、埼玉県などが一刻も早い八ッ場ダム完成を！と発言し、さながらダム推進を求める大合唱の場であった。

また、去る６月10日に埼玉訴訟原告５名は、「国交省データに虚偽」ということで、さいたま地検に「関東地方整備局を虚偽有印公文書作成・同行使容疑で処罰を求める告発状」を提出した。さいたま地裁に同整備局が提出したデ

ータと今年１月に明らかになったデータに違いがあり、裁判に重要な影響を与える事柄と判断したため、告発に踏み切った

東京高裁へ控訴中の裁判は５月末に控訴理由書を提出した。次回、第３回の進行協議は10月20日である。（２４民事部　午後３時３０分）

さて、東日本大震災後の世の中の関心は、いかに猛暑の今夏を乗り越えるのかであり、節電、節水は当たり前。不必要なものへの倹約は美徳だ。２０１１年度ダム予算２４００億円を震災復興へシフトしよう！と、他団体とともに内閣総理大臣、国土交通大臣、各政党へ緊急要請をしてきた。

震災時に決壊して８名の死者・行方不明者、１９戸の全壊・流出家屋など、多大な被害があった福島県の「藤沼ダム」の復旧はいまだ手がついていない。大震災による関東地方の河川被災箇所は９２０ヶ所もあるそうだ。その復旧が急務であり、今こそ不要不急な八ッ場ダム事業の予算をその復旧対策に回すべきである。

７月３１日には埼玉県知事選挙も予定されている。私は八ッ場ダム建設中止を訴える候補者を指示したいと考えている。

（事務局　大高文子）

最近の新聞報道から

朝日新聞

群馬版　2011年4月26日

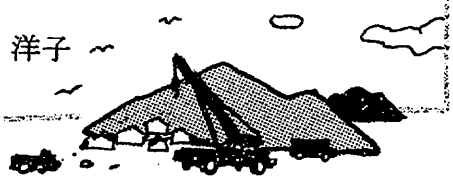
湖面２号橋（不動大橋）が開通（付替県道）

八ッ場ダム（長野原町）の水没予定地に架かる湖面２号橋（不動大橋）が25日開通した。民主党政権がダム中止を表明した2009年、新聞やテレビで工事中の十字架のような姿がたびたび報じられ、八ッ場ダムの象徴になっていた。

全長は５９０メートルで、高さ８６メートル。同町長野原～東吾妻町三島の県道約８，４キロが通行可能になった。ただ、長野原町川原湯地区の一部区間が未買収で町道を暫定的に利用するため、道が狭く大型車は通行できない。地元からは「観光バスが通れないのでは意味がない」と不満が出ている。

現地の状況

八ッ場あしたの会事務局　渡辺　洋子



久しぶりに八ッ場ダム予定地を訪れた人は、一様にその急激な変貌ぶりに驚くようだ。大震災で東北地方に多くの予算を割かなければならない筈だが、ガソリンや工事車両が不足していると騒がれた震災直後も、ダム予定地では殆ど影響は見られなかった。

付け替え国道と付け替え県道は下流の一部区間を除いて暫定開通し、十字架状の湖面 2 号橋（不動大橋）も開通した。ＪＲ吾妻線の川原湯温泉駅の周辺では、湖面 1 号橋の橋脚工事が行われている。巨大な橋脚が四本立つので、工事も四箇所。見るたびに橋脚が上に伸び、周辺を威圧するように空に高く聳えてゆく。この湖面橋によって結ばれる予定の川原湯地区と対岸の川原畑地区の代替地に行ってみると、ニュータウンのようなきれいな街並みが整い始め、移転した住民は水没予定地での不便な生活から開放されたように見える。

けれども、いずれの代替地も、対岸から眺めるといかにも不安定に見える。大きな沢を埋め立て、中には 30 メートル以上の盛土という場所もある。排水設備を施しているが、大水がきたとき、果たして盛土は持ちこたえるだろうか。国交省は安全だと言うが、安全性を保証する筈の資料を調べてみると、地下水を無視して計算しているなど、おかしなことがいっぱい出てくる。

3 月の東日本大震災では、津波や福島原発事故が大きくクローズアップされたが、一方で人工的な盛土造成地で地滑りなどの被害が多数発生している。国の[安全神話]は信用できない。傍から見ると、当事者の住民が声を挙げてもよいように思うが、表向きそういう声は殆ど聞かれない。

もっとも、八ッ場ダムの住民が特殊なわけではない。危険ではないかと薄々感じても、当分は大丈夫であることを願い、あえて問題を直視しない―福島原発事故が発生してから、放射能汚染の心配のある地域に住む多くの人々が、そうした行動をとってきたのではないだろうか。

そんな中で、国交省に事業の「安全性」について疑問を突きつける住民も中にはいる。現在、地元では川原湯温泉のＪＲ新駅予定地の問題が大きくクローズアップされている。ＪＲ線はダムサイト予定地の吾妻渓谷を走っているので、線路の付け替えが終わらなければ、本格的なダム本体工事には入れない。国交省によれば、ＪＲ線の付け替え用地はすでに取得済

みという。ところが、駅周辺の用地買収や、工事の安全性に問題があるらしく、いまだに新駅とその周辺の整備はいつ完了するのか、見通しすら明らかにされていない。

新駅周辺は過去、土石流災害が幾度も襲った地域で、地元では地形や地質が悪いことで有名だ。駅を造るのも大変だが、水をはったら、地すべりが起こるのではないかと心配する声もある。安全対策を口実に、ダムの工事はいつになっても続くのではないか、という声もある。

現在、国交省は八ッ場ダムの検証を行っているが、安全性の問題は、ダム検証の対象ですらないという。「もうここまで来たのだから、ダムを造るしかない」とダム推進派はいうが、取り返しのつかない災害が起こってからでは遅いことを、私たちは原発震災で学んだはずだ。

原発とダム、問題の根は同じ！

八ッ場あしたの会　http://yamba-net.org/

「事務局便り」の『原発とダム』より

第二次大戦後のわが国では、原発はダム計画と同様、国策とされてきました。世界一の地震国であるわが国には、５４の原子力発電所と約３，０００基のダムが建設され、いまだに建設が続いています。原発問題の構造は、ダム問題と酷似していると言われてきました。以下に挙げる両者に共通する問題は、今回の原発事故と深い関わりがあるものばかりです。

① 官僚組織がリーダーシップをとり、関係自治体を巻き込んで計画を推進。財界は利益を享受し、官僚の天下りが行われ、事業に投下される税金は献金により政治家の資金源となる（いわゆる政官財癒着の利権構造）

② 安全性、経済性など多くのデメリットが起業者によって伏せられ、正確な情報の入

手が極めて困難。

③　現実と乖離した過大な需要予測（原発では電力需要の上昇、ダム事業では都市用水の需要増）が事業推進の前提となっている。原発政策ではオール家電など電力需要の上昇を促す政策が並行して推し進められてきた。

④　事業を検証するための組織がいわゆる御用学者によって占められ、客観的、科学的な検証の機会が奪われる。反対派の学者は研究機関におけるポスト、研究費などで冷遇される。

⑤　マスコミは利権構造の圧力により、推進側に有利な報道が主流。事業推進に疑問を投げかける心ある有識者らの見解が一般の人々に伝えられる機会はほとんどない。一方、多額の税金により、事業推進にとって都合のよい政府広報の一般国民への普及が継続的に行われてきた。

⑥　公教育の場でも、事業推進のメリットのみが強調され、問題点が伝えられる機会はほとんどない。

⑦　上記の情報操作により、一般国民は進みつつある深刻な事態と起こりうる危機を察知することが困難。

⑧　事業に反対する地域では、行政により住民間の対立が作り出され、地域コミュニティがズタズタにされる。立地される地域に交付金などの優遇措置を講じることで、地域全体が計画受け入れに同意する流れが作られる。地元では関連する仕事に従事する人が多く、事業に依存する地域の中で反対意見は白眼視される。

⑨　国策に反対する意見に対しては、たとえそれが科学的なものであっても反体制とのレッテルが貼られ、社会全体として問題そのものを取り上げることすらタブー視する雰囲気がつくられる。

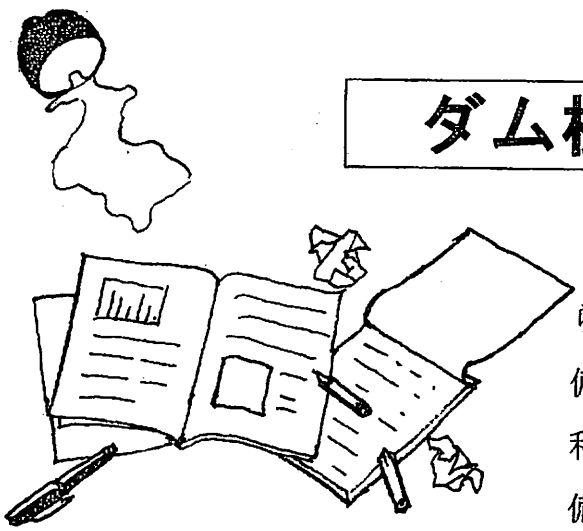
⑩　一旦計画がスタートすると、今さら後戻りすることは現実的ではないという推進側の意見が前面に出され、根本的な議論が行われない。

⑪　代替案の検討（原発の場合は自然エネルギーの開発など。ダムの場合は河川改修、雨水の活用など）が疎かにされ、社会経済が硬直化する。

⑫　事業に伴って生み出される廃棄物（原発の場合は放射線廃棄物、ダムの場合はダム湖に堆積するヘドロ）処分や耐用年数を過ぎた時の廃炉（ダムの場合は撤去）のコストが事業計画に組み込まれず、現状ではその技術も確立されていない点が多い。

八ッ場ダム検証のまやかし

嶋津暉之



ダム検証作業の茶番劇

「八ッ場ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検 討の場」第５回幹事会（関東地方整備局と６都県で構成）が５月２４日に開かれ、利水についての検証の中間報告を関東地方整備局（以下、関東地整）が説明しました。

しかし、それは、検証しているかのように見せかけるために関東地整と６都県が演じる、まさしく茶番劇というべきものでした。八ッ場ダムが利水対策の最適案となる答えが出すための儀式でしかありませんでした。

利水面の検証において最も重要な検証事項は、各利水予定者が八ッ場ダムに求めている水量が本当に必要か否かということです。各利水予定者とも、水需要の実績を無視した過大な水需要予測を行い、本来は不要な水量を八ッ場ダムに求めています。利水の検証では何よりも前に、水需要予測が実績を踏まえたものかどうかを調べ、実績と乖離している予測の是正がされなければなりません。

ところが、関東地整は各利水予定者の八ッ場ダムへの要求水量をそのまま容認し、その水量を確保する利水対策案を比較するだけの作業を進めつつあります。八ッ場ダムの開発水量は毎秒１６．５０８㎥（通年換算）、日量１４３万㎥で、約３５０万人分の水道用水に相当する水量です。今さら、これだけ大量の水源を確保できる利水対策などあるはずがありません。

案の定、関東地整が示した利水対策案はいずれも現実性が全くなく、コストが桁違いに高いものでした。たとえば、富士川らの導水を中心とする利水対策案があります。

静岡県の富士川河口部から導水管を延々と引いてくるというのですから、開いた口が塞がりません。現実性ゼロの利水対策案と八ッ場ダム案を比較すれば、八ッ場ダムが最適案になることは分かりきったことです。

水需要の過大予測をまったく見直しすることなく、茶番劇というべき見せかけの検証作業が進められつつあるのです。

「原発村」と同じ「河川村」、日本学術会議の本質

八ッ場ダムの治水面に関しては、その基本的な前提となる利根川の基本高水流量について馬淵澄夫前・国交大臣がその妥当性を疑問視したことから、大臣の指示で国交省は日本学術会議に基本高水流量の検証を依頼しました。

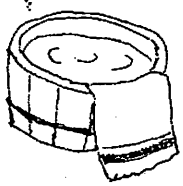
学術会議では１２人の委員からなる分科会を設置して１月から６月まで１１回の会議を開き、検証作業を行ってきました。

私たちは学術会議の委員が学者の良心に基づいて、ひどく過大な基本高水流量２２０００㎥/秒を見直して、かなりの下方修正をするのではないかという期待を抱きましたが、その期待は見事に裏切られました。

国交省が新モデルで計算した基本高水流量２１１００㎥/秒～２２２００㎥/秒を学術会議は妥当と判断してしまったのです。会議で出された解析資料から科学的に結論を導けば、もっと小さい値が妥当となるにもかかわらず、学術会議は国交省の意向に沿った結論を出しました。

最近、原発問題の根底にあるものとして、学者、官僚、業界が一体となった利権構造「原子力村」という言葉がよく使われますが、ダム問題についても同様に、三者が一体となった「河川村」というべきものが存在していることを示しています。

これで、八ッ場ダムの治水面の検証も先行きは暗いものになりました。



川原湯温泉街の疲弊

このままでは、秋に出るとされる八ッ場ダムの検証の結果は事業継続になる可能性が高くなりましたが、しかし、私たちは希望を捨てずに、各方面への働きかけを続けてまいります。

一方、ダム予定地の川原湯温泉街は疲弊の一途を辿っています。営業している旅館は昨年暮れから、５軒のみとなりました。そして、現地で凄まじい土木工事が進められているため、客足が遠のき、残る５軒も営業が困難になりつつあります。

八ッ場ダム湖ができれば、観光客が再び来るようになるという声がありますが、利根川流域のダム湖の周辺はいずれも閑散としており、さらに八ッ場ダム湖は夏期に水位がひどく低下するなど条件が悪く、集客を期待できるようなものではありません。

それに、ダム事業を仮に再開することになっても、ダム湖ができるのは早くて今から８年後のことです。実際には試験湛水に伴う地すべりの発生で完成はもっともっと先のことになるでしょう。その間、地元の人たちはどうやって生活していくことができるのでしょうか。現状を冷静に見れば、代替地で営業を続けることができる旅館があるかどうかも分からない状況なのです。

さらに、追い打ちをかけるのは、県がつくる観光施設や国がつくる温泉の配湯施設の維持管理費です。施設は県や国がつくりますが、維持管理費は地元負担であって、年間数千万円以上とされています。これだけ多額の維持管理費を地元が負担し続けるには大勢の観光客が押し寄せなければなりませんが、それは全く期待できません。

地元のために、八ッ場ダムをつくれという意見がしきりに語られますが、八ッ場ダムは決して地元の人たちを幸せにするものではないのです。

朝日新聞（群馬版）2011年5月11日 朝刊より

ダム湖貯水で水量減少
水力発電能力は低下

東日本大震災による電力不足への懸念とともに、建設するか検証中の八ツ場ダム（長野原町）で計画されている水力発電への関心も出てきた。ただ、ダム計画は下流域で水力発電に使ってきた水を減らす前提で成り立つ。ダム建設で、吾妻川水系の発電能力はむしろ低下する見通しだ。

八ツ場ダムは2008年の計画変更で、治水と利水が主だったダムの用途に発電が加わり、県企業局が発電所をつくることになった。流量の維持や洪水調整、利水の補給のために放流される際にのみ水を使う。

県によると、最大出力は一般家庭4千世帯分にあたる1万1700キロワットを予定している。

「電力不足のいま、発電もできる八ツ場ダムの必要性は高まった」。ダム推進派からはそんな声が出る。

だが計画では、ダム湖に水をためる代わりに、既存の水力発電所を動かしてきた水を減らす。

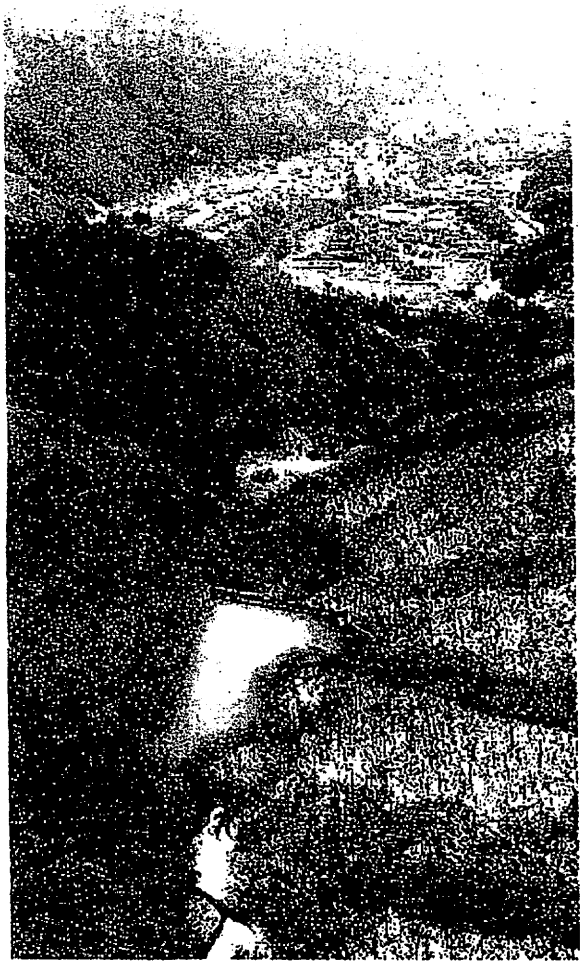
ダム予定地下流の東吾妻町や渋川市には、東京電力の川中、松谷、原町、箱島、金井、渋川の6カ所の水力発電所がある。大正時代から戦後復興期に運転を開始した6発電所の最大出力は計11万3200キロワット。ダム予定地上流の吾妻川や白砂川から取水し、本川とは別の導水路を経由させた水を利用している。

この発電用の取水とダムの関係について、04年12月、政府は「（八ツ場ダムの）必要な水量を確保するため、東電に対する減電補償を行い、これまで水力発電に使用されてきている吾妻川及び白砂川等の河川水の一部を貯水池（ダム湖）に流入させることとしている」と、共産党議員の質問主意書に答えている。

導水路を流れている水は最大で毎秒30トン。ダム予定地直下の吾妻川（東吾妻町岩島）での国土交通省の03年の観測では、流量はおおむね毎秒0・79トン～11・73トン。本川の3～30倍程度の水が発電に使われていることになる。

発電用の水をどの程度、ダム湖に回すかはっきりしないが、水力発電所の発電能力は低下する。国が東電に支払う減電補償金は数百億円規模との指摘も出ている。

水源開発問題全国連絡会の嶋津暉之共同代表は「年間発電量の試算では、八ツ場ダムが出来て発電するようになっても、その5倍の電力が失われる」と指摘している。（菅野雄介）



上流からの水をためている東京電力の鎌治屋沢ダム。ここから松谷、原町、箱島などの発電所へ水が送られる。写真上は東吾妻町の岩櫃山周辺＝2月20日、本社ヘリから

八ツ場よ！

●インフォメーション

「八ッ場ダム事業の客観的・科学的で公正な検証と、ダム予定地再生のための法整備を求める請願書」提出集会

日時　7月26日（火）11時30分集合

場所　参議院議員会館B—107会議室

訴訟情報

東京　9月30日（金）午後2時30分　東京高裁　第5民事部

茨城　10月13日（木）午後3時30分　東京高裁　第10民事部

＊埼玉　10月20日（木）午後3時30分　東京高裁　第24民事部

群馬　11月15日(火)　午後2時30分　東京高裁第11民事部

千葉　11月25日（金）午後4時00分　東京高裁　第22民事部

治水の情報公開裁判　：8月2日(火)　午後1時25分　東京地裁522号法廷　判決

●埼玉の会事務局では下記の書籍を販売しています

申込み先：八ッ場ダムをストップさせる埼玉の会

FAX　048－831－4891(大高)

氏名、送付先住所を記入のうえ、申込み下さい

（代金は振り込み用紙を送付致します）

★「八ッ場ダム　—過去・現在・そして未来」（岩波書店・嶋津暉之、清澤洋子著）

2000円（著者割引・店頭価格2310円）

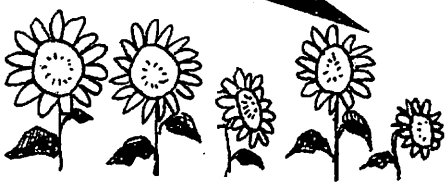
★「首都圏の水があぶない　—利根川の治水・利水・環境は、いま」

（岩波ブックレット・大熊孝、嶋津暉之、吉田正人共著）　500円

会費納入とカンパのお願い

当会の活動は、皆さんの会費とカンパで支えられています。

どうぞご協力をお願いします。



年会費：2000円（2011年1～12月）

八ッ場ダムをストップさせる埼玉の会

郵便振替：00180－2－334064

八ッ場ダムをストップさせる埼玉の会

事務局；さいたま市浦和区北浦和5-15-41-221　大高方　TEL&fax；048-831-4891

★八ッ場ダムをストップさせる埼玉の会 http://yambasaitama.blog38.fc2.com/

★八ッ場ダム訴訟 http://yamba.sakura.ne.jp★八ッ場あしたの会 http://www.yamba-net.org